

議事録

【会議名称】令和5年度 第2回朝霞地区在宅医療・介護連携推進会議

【日時】令和5年9月25日(月)15:30～16:45

【会場】和光市総合福祉会館3階 第3会議室

【出席者】別紙参照

【議題】

- (1)MCS の普及啓発について
- (2)入退院支援の推進について
- (3)在宅緩和ケアの推進について
- (4)その他

議題(1)MCS の普及啓発について

◇運用ポリシー改訂について

※参照:MCS 運用ポリシー新旧対照表・MCS 運用ポリシー・MCS 運用ルール

・従来の「朝霞地区 MCS 運用ポリシー」を「朝霞地区 MCS 運用ポリシー」と「朝霞地区 MCS 運用ルール」に分けることで承認された。

・課題であった患者グループ管理者について下記のように承認を得た。(朝霞地区 MCS 運用ルールに掲載参照)

・関係者で協議の上、管理者を決定する

・患者グループ管理者の責務を別に定義する

◇研修会について

※参照:新座市作成チラシ「こんなに便利！MCS」・MCS 活用における利点と留意点

【①導入編】12月18日

方法:オンライン開催(4市すべての医療・介護従事者に向けて)

担当:行政代表より

内容:MCS を導入する利点・安全性について説明

教材:チラシ、MCS 活用推進通知

【②入門編】日程未定

方法:対面開催

内容:入門編(アプリの入れ方・基本操作・初歩的な使用方法)

担当:未定

【③応用編】日程未定

方法:未定

内容:応用編(方法としての実践)

担当:実践者

【ぼけっとステーション山口氏】

研修会の対象範囲はどこなのか。福祉も入るのか。

⇒事務局より回答：今回は医療・介護従事者を対象に行う。

議題(2)入退院支援の推進について

事務局より説明 [議題(2)資料参照]

◇手引きの項目別評価について

【ぼけっとステーション山口氏】

実際に手引きを使用している場面を目にした。

今後 FAX ではなく MCS でのやり取りができるようになればよい。

【事務局】

少しずつではあるが、実際に使用されている反応も見えてきている。

◇情報提供様式について

【新座志木中央総合病院 上島氏】

病院では各々電子カルテを使用しているので、様式変更は難しい。それぞれ表現が違っていても内容的には同じであり、書式よりも「何を伝えるか」が重要。

【朝霞地区医師会 浅井医師】

病院によっても様式は違うので、伝えるべきことが網羅されていけばよい。

【事務局】

様式にはこだわらず、入退院時にそういった情報のやり取りが必要だということを周知していく。

◇チラシ「ご利用者・ご家族の方へのお願い」活用の推進について【さくら訪問看護ステーション 鈴木氏】

利用者に、周囲の連携が大事だというインプットのためにチラシはあった方がよい。

行政で、介護保険を渡すときにチラシも渡してもらうのはどうか。

【新座志木中央総合病院 上島氏】

「自分の病状についての情報のやり取りが行われることが、自身のためになる」という認識が、患者に浸透すればよい

【事務局】

本日の意見を踏まえ、チラシ内容・配布の方法について今後見直しを検討していく。

◇手引きの更新の必要性について

全体的な更新は必要ないが、チラシ「ご利用者・ご家族の方へのお願い」について今後検討の余地あり。

議題(3)在宅緩和ケアの推進について

事務局より報告 [*議題(3)資料参照]

(*令和4年度朝霞地区医療介護職者に対する「在宅緩和ケア」に関するアンケート調査まとめ)

・上記アンケート調査結果から、令和5年度から「在宅緩和ケアの推進」にどのように取り組んでいくのかが課題と考えている。

①機能する医療機関とのネットワークづくり

②事例検討

①、②についてどのように取り組んでいくのか11月の推進会議にて具体的な報告をしていきたい。

【TMGあさか医療センター 浅井医師】

緩和ケアというと癌を連想するが、その他の病でも末期には緩和ケアが必要となる。

患者自身の「最期は自宅で」との思いが強いことや、麻薬の使い方等の問題はあるにせよ、緩和ケアの患者だからといってものすごく特別ということではなく、医療的には通常の患者とさほど変わらない。勉強会を行い、「そんなに難しいものではない」ということを広めていけるとよい。

主治医が独居でも在宅で看取れることを知らないので、医師の意識改革をするとともに、市民にもACPを普及していく必要がある。そういった研修会ができるとよい。

2040年問題に向けて医療費も削減され、無駄な医療も削減されていくはず。

行政も含め、多職種の集まったこの会議においてACPの普及啓発・研修会を考えていくのがよい。

【新座志木中央総合病院 上島氏】

急性期治療のあとの緩和ケア、「家に帰りたい」という患者の希望をうまく繋げることが課題。

「在宅緩和ケアはさほど難しいことではない」ということを周知するための研修会が必要。

本人や家族が、「今後どうしたいのか」を日頃からイメージできていると、いざという時にスムーズに支援が出来る。

【支援室 高田】

「好事例を聞き、うまくいかなかった事例を検討する」ことを研修会の内容として検討している。

【塩味病院 安藤氏】

病院の医師も看護師も、在宅についてよく知らない。

【ぼけっとステーション 山口氏】

病院から在宅にという話が来たときはもう遅く、用意はしたものの結局は自宅に帰れない、ということもある。どうしたら在宅に移行できるのか、医療・介護の両サイドが知る必要がある。

家族の気持ちが追いつかないケースも多く、どのように話を進めていくのが良いのか等の事例も聞きたい。

【支援室 菅田】

「最期をどうしたいか」を含め、市民が自分自身でイメージを持っているならば支援ができるが、イメージすることが難しいのだとすれば、それも大きな課題である。

医療サイドから10年後の病院事情(長くは入院できないこと等)を話し、市民を育てていくことも必要なのでは。市民向け啓発活動も考えていけないといけない。

【TMGあさか医療センター 北村氏】

市民公開講座やコンサート等の市民向けイベントの際に、集まった市民に対してACPを広めていくのがいいのでは、という話を朝霞市としている。

【志木市役所 増田氏】

志木市では、認知症の映画上映の後にACPについて話をした。

～事務局よりまとめ～

今後も協議が必要な案件であるので、各々考えていただき、今後の会議に繋げたい。

議題(4)その他

特記事項なし

***** 次回開催 *****

【日 時】令和5年11月27日(月)15:30～

【場 所】和光市総合福祉会館3階 会議室2

記録:奥